

それにあわせてそれぞれの専門家に依頼をしておると、それと、商工会、銀行等とも話をしております。いろんな、新たに創業される方々の相談もここで積極的に引き受けて相談に乗っていききたいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 3番、長郷泰二君。

○議員（3番 長郷 泰二君） ごめんなさい。弱いね。それでは弱いです。それは今ある現実を言っているじゃないですか。今がそうなんです。今そうだからもうちょっとこ入れませんかと言ってあるわけ。

例えば、中小企業団がやっているよろず支援相談、商工会の指導員が市民お世話している支援センター、あるのは十分知っているんだけど、連携ができていないじゃないですか、現実的に。私も民間人ですから、これを利用させていただいていますので、そこら辺はよく知っているつもりなんですけど、あえてサポートセンターと言っているのは、市内の中におられる方でいいんじゃないかなという気がしているんです。

あえて長崎、福岡とか、そういったわざわざアドバイザーを連れてこなくてもいいんじゃないかなという気がしているんです。

だから、そういった人材はおられると思います、市内の中に。そういった方々ともう1回よくお話をなされて、これはぜひサポートセンター、気軽に行ける、申請の時期だけでいいんです、1年間フルじゃなくても。3カ月なら3カ月の間だけでも、ちゃんと親身になって相談に乗れる人材を発掘していただいて、やる気のある事業者たちを育てていただきたいと、かように思います。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで長郷泰二君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩いたします。再開を3時ちょうどからします。

午後2時46分休憩

午後2時59分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き一般質問を行います。17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 皆さん、こんにちは。最後の質問になります。少し眠たいでしょうが、我慢して聞いていただきたいと思います。

私も21日の選挙で6期目の当選をさせていただきました。これから一生懸命頑張っていきたいと思います。対馬市議会も小川議長、それから、上野副議長、この体制も決まりました。委員

会の体制も決まりました。19人の議会議員、一緒になって力を合わせて島民の生活向上のためにさらに努力をしていきたいというふうに思っております。

先ほど、豊玉同士になりますが、豊玉の長郷議員が質問をいたしました。まず最初の質問で、後の質問は僕はさわりませんが、最初の道路の話は長郷議員がしました。これは通告をしておりますけれども、前からこの糸瀬線、これはずっと要望をしている問題です。費用対効果を言われても、必ずこれは該当するだろうという路線ですから、先ほど市長が言われました30年の採択に向けて、ぜひ一日も早い着工を私のほうからもお願いをしておきたいというふうに思います。

国境離島新法が成立をいたしまして制定されて、4月1日からこの新法が動き出しているわけです。その中身につきましては、航路航空路運賃と、それから、貨物の運賃、雇用の拡大というふうなものが徐々に対馬市としても取り組んでおられることはよくわかっております。

これはこれとして、対馬は昔から国境離島なんです。だから、国境離島としてこれからまだこの島としてやっていかなければならないこと、国境離島を観点に考えたときに、今から4点ほど私も質問をしてみたいというふうに思います。

この選挙期間中も島内をいろいろ歩いて回って、意見を聞いて、そして話をしたりしながら、こういったことを話してきましたけれども、やはり、よく要望される点もこの中に上げております。それを今から4点ほど質問をさせていただきます。

まず1点目ですけれども、ちょっと話が太いんですが、今、よく報道されております北朝鮮のミサイルの問題、これは、各県、国、自治体が一緒になって合同訓練があちこちで行われようとしております。

長崎県の雲仙が何か知りませんが、この中に入っております。どうしてこの対馬とか近い佐渡とか、こういったところが本当はこのミサイルに対する訓練を私はやるべきだろうというふうに思っておりますが、これも選挙期間中、ちょっと前だったか、ある市民の方から話をいただいたんです。

漁民の方ですけど、北朝鮮のミサイルが日本海にポンと落ちたり、どこかに落ちたり、韓国に落ちたり、韓国には打たんでしょうが、そういったときに難民が流れてくると想定されると、昔も朝鮮の南北戦争のときにそういったことがありました。私の部落にも何十人か流れてきたことがあります。

小さいときですからよくわかりませんが、そういった記憶があるんですが、漁民としてそれをどうするのか、もちろん流れてくるやつは助けるでしょうけれども、その後の問題、これは、その島民の合同訓練と一緒に、そういった難民を漁船で助けた人たちのマニュアルまで私は県や国と相談をしてつくっておくべきだというふうに、その方もそう言われたんです。

「どうすりゃいいとかね」、「いやいや、それはまた俺に言われてもわからんから、市と今か

ら相談しましょう」という話をしておりますから、この点が1点。

それから、2点目ですけれども、これも国境離島絡みだと思っておりますが、国境離島に自衛隊の増強配備という記事を新聞に出たことがあります。これを受けて、五島市も壱岐市も、宮崎もそうでしたけれども、いろんところで自衛隊の増強を申し込んできております。

対馬にも既に自衛隊はありますけれども、やはり、韓国から50キロのこの島に今1,000人ぐらいの体制で自衛隊はおると思っておりますけど、今まで私も韓国とか北朝鮮を刺激をするから、対馬の増強は要望せんほうがいいよという話を聞いてきたんです。でも、やっぱりそれじゃ、この島は今から守っていけないじゃないか。

例えば、その難民が来たときの対処の仕方にしても、やはり、これは国とよく相談をして、一番近いのは対馬ですから、今度も与那国島にも配備をされます。だから、対馬の増強を私は、特に市は県や国に、ほかの自治体よりも先に、もう先じゃないけども、重要性をお願いをしてほしいなというふうに思っております。

特に、ここの中が3自衛隊がありますけれども、やはり海上自衛隊、この自衛隊は対馬に艦船は1隻もおりません。レーダー基地だけの海上自衛隊になっております。

私は、今、北朝鮮のためにイージス艦を4隻増やそうとしております、日本も。新船をつくったり、配備をしたりするようにはしていますが、この配備をする中で、やはり対馬にイージス艦、あるいはそういった大きな艦船が接岸できる岸壁がない。

だから、こういったところを国境離島の新法の関係もありまして、ぜひ、強く私は要望をして、どこにつくるかは別として、やはり対馬のどこかに、もちろん給油も要るでしょうし、乗組員の補給も要るでしょうし、そういったものをさせるためにも、ぜひ対馬のどこかに艦船を接岸できる岸壁を要望するべきだというふうに思っておりますので、これも市長の御意見を伺いたいと思います。

それから、3点目ですけど、これも大きな問題なんですけど、韓国には原子力発電が今25基あるそうです。僕も見たことはないんです。行ったこともないし、あの原子力発電がある所に行ったことはないんですが、25基あるそうなんです。

それで、日本にも結構ありますけど、日本の福島原発がボンというたときに相当の被害が出て、どれだけの人に迷惑がかかったかということがあります。

韓国には地震がないと言われておりましたけれども、この前ありました。韓国でも地震がある。あったときに、どの原発かわかりませんが、ボンというたときには、一番影響を受けるのは、僕は対馬だと思っております。

特に冬になったときには北西の風でボンと気流は乗ってきます。原発は放射能が降ってきます。そうすると島どころじゃない、何もかもわやになってしまうと僕は思っているんですけど、これ

もやはり国との協議になりますが、どういった対策をとったらいいのか、とってくれるのか、これも私は市長の責任でもって国のほうにお願いをするべきだというふうに思っております。

3点目、今度4点目ですが、これは少し優しくなります。実は、3週間ぐらい前に、海洋保護区のスエノ先生と一緒にドローンのタケウチ君という人が来て、そして飛ばしたんです、ドローンを。ドローンを飛ばして、それをぼおっとして見てたら、これはいい品やなと思って見てたんです、何人かで。

そして、これはいろんなことに使えるっちゃないかな、このドローンは。値段も高くないし、そして、これで対馬の観光に大きく役立つんじゃないかなと、観光もそうですけども、災害の写真とか、あるいは海洋漂着ごみの写真であるとか、道路の設計の写真であるとか、こういったものにドローンを使えば簡単にできるような気がするんです。

機体は約15万円ぐらい、そして、20分から25分飛ばせることができるし、資料をお渡ししましたので、後で読んでもらえばいいですが、これはあしたからすれという品ではありませんので、ぜひ今から必ず各自治体に役に立ってくる機材じゃないかなというふうに僕は思うんです。

けさもNHKでその放映がされていたという話が出てきたんですが、長野県の山の遭難者の捜索をけさドローンでやっていたみたいです。だから、そういったのも、大きなヘリを飛ばしたりせんでもいいですから、できるんじゃないか、対馬も白岳で遭難する人もおるし、海上事故もあるし、こういったものには即役に立つような気がするんですが、この導入についても考えをしていただきたいなと思っておりますので、この4点について市長の答弁をいただきます。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 作元議員の御質問にお答えをいたします。

結構大きなボリュームの質問でございますので、私もどういうふうに答えていけばいいのかなということで、職員とも大分悩んだ次第でございます。

まず、1点目の北朝鮮のミサイル発射に備えた対馬市の取り組みについてでございますが、報道等で御承知のとおり、北朝鮮は国際的な非難が集まる中、たび重なる弾道ミサイル発射を決行し、ことしに入ってから10回の発射を確認しております。その中で我が国の排他的経済水域内に落下した弾道ミサイルもあり、国としても断じて許すことのできない行為として厳重なる抗議も行われているところでございます。

また、国境の島として武力攻撃事態等に対する事前対策や応急対策の必要性を再認識しているところであります。

全国のほとんどの自治体は、弾道ミサイルが飛来する可能性があるときには、24時間体制で瞬時に緊急情報をお伝えするJアラートを整備しております。万が一対馬市に弾道ミサイルが飛来する可能性がある場合、それを通信衛星が察知しますと、Jアラートが自動で起動して緊急情

報が伝達され、屋外拡声施設を通じて緊急情報が流れるほか、携帯電話やその他のスマートフォン等にも緊急情報が伝えられる仕組みとなっております。

国は本年3月、秋田県沖の領海内に弾道ミサイルが落下したことを想定した住民避難訓練を秋田県と男鹿市で共同で実施しております。

訓練後の内閣官房参事官の記者会見では、ミサイルは爆風や熱、破片が一番危険で、頑丈な建物内なら直接被害はかなり軽減されると述べられておりますが、その一方、参加者で太平洋戦争を経験した83歳の女性は、実際にミサイルが落ちれば避難どころではなく、その前に国同士で何とかしてほしいというふうに話されております。

また、県内では、報道発表のとおり、武力攻撃事態を想定し、有事の際の国や地方自治体の役割などを定めた国民保護法に基づいた国主導の国民保護訓練を来月20日に雲仙市において行われることが決定しております。対馬市におきましては、訓練に担当職員を評価員として派遣し、参加することで知見を深め、技術の習得に努めさせたいと考えております。

また、市独自の訓練として、今年度も自然災害を想定し実施する住民避難訓練を実施する予定でございます。あわせて、ミサイル発射を想定した避難方法やとるべき行動についての伝達講習も計画したいと考えています。

終わりの見えない北朝鮮の挑発行為に国民の不安も募り、ようやく政府としても6月23日から7月6日まで、政府広報によるテレビCMの放送が行われ、弾道ミサイルが日本に落下した場合の基本的な3種類の避難行動が紹介されております。

また、朝鮮半島に有事が発生した場合に備え、島民の安全安心を守るためにも、市内の関係機関と相互協力し、諸問題に対し共通認識を持つために、関係機関との情報交換を図ってまいりたいと考えております。

現在、国際社会は北朝鮮に厳しい経済制裁を科しておりますが、可能であれば対話による平和的外交による解決を期待しながら、正確な情報伝達と政府広報のテレビCMにある3つの避難行動などの周知に努めてまいりますので、御理解のほどお願い申し上げます。

次に、2点目の自衛隊部隊の体制強化や増員に関する本市の方針につきましてお答えさせていただきます。

我が国への近隣諸国の状況を鑑みますと、中国の海洋進出、北朝鮮のミサイル発射などの諸問題が上げられます。政府や近年、九州・沖縄の離島の防衛力を高める南西シフトを進めており、東アジアの情勢が不安定な中、日本の安全保障と密接に絡む国境離島の重要性が再認識されているところであります。

そのような状況の中、議員の御指摘のとおり、県内の離島自治体では、自衛隊部隊の体制強化や増員を求める動きが活発化しており、本年4月施行の有人国境離島法に自衛隊などの行政機関

設置に努める方針が明記されたことにより、人口減に苦悩する離島自治体の思いを後押しした格好となっております。

自衛隊は国防のための存在ではありますが、地域経済の下支えとなっていることも事実でありまして、災害支援や各種イベントへの参加・支援など、市民生活と密接で良好な関係にあります。今後も引き続き自衛隊部隊の施設拡充や増員を実現するため、市議会及び関係機関とスクラムを組み、国へ働きかけてまいりたいと考えております。

この中で、海上自衛隊の艦船が接岸できる岸壁等の要望をすべきではないかという御質問もいただきました。このことにつきましては、市といたしましても、この災害時に、例えば北朝鮮等の難民が押し寄せてきたとか、大きな災害があったときに対馬の市民の皆様を大量に運べる岸壁が今のところはないといったことで、新たな13メートル等の岸壁をつくっていただき、自衛隊艦船も着岸できる岸壁をお願いしたいということで要望書等も上げているところでございます。

次に、3点目の韓国の原子力発電の状況について御質問がありました。

御承知のとおり、対馬市は佐賀県の玄海原子力発電所から100キロ圏内、お隣の韓国の「古里」と書きまして「コリ」ですけれども、古里原子力発電所からは70キロ圏内と事故発生の場合は隣国からの影響を受ける可能性が高い位置にあります。

市民の皆様の御心配は、いまだ記憶も薄れない東日本大震災における福島第一原発事故による避難民の御苦労の様子に重なるものと考えております。

この事故は、ドイツなど先進国がエネルギー政策を脱原発へシフトするターニングポイントとなった大事故でもありました。新聞報道等で御承知のとおり、運転開始から40年を迎えた韓国釜山市の古里原発一号機が今月18日に廃炉となりました。また、ムン・ジェイン大統領は原発の新設計画の白紙化を宣言するなど、脱原発へかじを切ったとの報道もあっているところでございます。

しかしながら、昨年9月に発生した韓国地震の震源は、釜山市の古里原発付近であり、対馬への影響が懸念されるところでございましたが、その地震の発生情報すらすぐには届きませんでした。

このような事情からも、仮に韓国で大地震などによる原発事故が発生した場合は、外国であるがゆえ、その事態を日本国内のようにリアルタイムで把握することは難しいものと想定されます。

ひとたび原発事故による放射能漏れが発生した場合、風向きによっては島で暮らす市民の身体への放射能被害が懸念され、加えて第一次産業に対する風評被害等、はかり知れない事態を招くことが懸念されるところでございます。

そのような中、先般、国の原子力規制委員会から、上対馬地域に放射能測定モニタリングポストの設置を計画しているとの連絡を受け、本市といたしましても早期の設置を要望したところで

ございます。

この放射能測定モニタリングポストが設置されますと、原子力規制委員会のホームページにアクセスすれば、誰でもリアルタイムで現在の放射線量を確認することができることとなります。設置実現の際には、市民の皆様には広報等でお知らせしたいと考えております。

容易に市民の不安を払拭し、問題を解決することはできませんが、国交ルートによる迅速な情報提供の確立について、自衛隊の増強と同様に機会を捉え、議会とともに関係機関へ要望をしてみたいというふうに考えております。

次に、4点目のドローンの導入と活用についてでございますが、現在、ドローンは民間団体がさまざまな活用方法を紹介し、自治体でも導入を検討するところも増えてきているものと伺っております。

その活用方法は、カメラを搭載すれば、人が近づけない場所の状況把握や、海難救助、防災対策、インフラ点検などと幅広くその活用の可能性について検証が行われているようであり、「空の産業革命」とも言われ、自治体における活用の方法も少なくないと考えられます。

しかしながら、ドローンは航空法により無人航空機と位置づけられ、当然ながら操縦するには法的な規制がございますが、順次述べますと、人口密集地域ではない場所、地上から150メートル未満、空港や重要施設から定められた距離を離れる、無関係な人や施設から30メートル以上離れる、日中に飛行する、操縦者から目視範囲内での飛行、このように決められているところでございます。

また、ドローンの特性上、他人のプライバシーに触れる可能性もあることから、一部の自治体におきましては、その規制を行うための条例を定めている団体もあるようです。

今後は、ドローンの活用の可能性について、自治体や民間団体においても検証が進むものと思われ、行政における活用の範囲も広がるものと考えられますので、対馬市といたしましても検討をしてみたいと考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 市長の答弁はそんなものでしょうね。私が答弁に立っても多分そうだと思いますが、1点目から少しだけ補足というか、質問をしてみたいと思いますが、1点目の北朝鮮のミサイル発射です。これは頻繁に行われるようになってまいりました。

今度打たれたロフトレッドというやつは、2,000キロ飛んで800キロ飛ぶ、高さが高い、大体こういったものを彼は準備しているわけで、どこに落ちるかわからん。失敗したらどこに落ちるかわからんとです。

そこで、今、ここが北朝鮮で、ここからこう来た、こら辺によう落ちているわけです。この

辺に。それで、ここに大和堆という昔、対馬の漁船でよく行ったイカ釣りの漁場があるわけです、すばらしい漁場が。だから、この漁場の中に、今、北朝鮮の船が入り込んでいる。だから、この漁場ももしかしたら日本の排他的区域の中だと思っている、この大和堆は。だから、これも取られやせんかな。

今、海上自衛隊と海上保安部と彼らを追い出しに行っていますけど、簡単に言うことを聞くかどうかわかりませんが、こういったところもすばらしい漁場ですから、やっぱり国がしっかりこれも守らないと、もしかしたら取られるかもしれない。

昔はずっと対馬の漁船もここに行ってイカをとっていましたから、だから、こういったことも少し頭に入れながら、国との交渉をするときに、ぜひこれも入れてください。大和堆の確保、こういったこともぜひお願いをしたいと思います。

それと、今、原発の話もしました、韓国の。電力の30%は原発に頼っているわけです、韓国は。それで、韓国の原発があるのは日本海側、私も見たわけじゃないからわからんけど、聞いた話によると、日本海側にあるということで、もし、市長が言われるように、日本みたいにぱっぱと情報が来るわけじゃないから、どこで何が起こるかわかりませんが、こういったところでボンという場合は必ずこっちへ来ます。

だから、こういったこともぜひ頭に入れとっていただきたいと思います。

だから、雲仙市で20日に避難訓練、これはミサイルに対する訓練（発言する者あり）北朝鮮の（発言する者あり）そうでしょうが、どうして雲仙ですとかな。

能登半島かどっかあっちですするならわかるけど、これは県がやるわけ。（「国です」と呼ぶ者あり）国やろ、ようわからんけど、それは国がやるこっちゃけ、行けばいいですけど、よくそのときに、どういった方法でやるのか、訓練を。よく職員が行って、聞いて、そしてそれを対馬にどういうふうに応用ができるかいうことを早くマニュアルをつくって、そして住民に知らせるように、こうなったらこうなるよというふうにしとかなと、いつ来るかわからんもんね、この北朝鮮の場合は。

だから、ぜひそこも早くやっていただきたいなというふうに思います。

住民避難訓練にもあわせて、ミサイルの問題と今度やると言われましたけど、それも入れて、難民の取り扱いと、こういったこともちゃんとつくり上げて、各村でもどこでもいいですけど、そういった人たちにわかるようにしていただきたいというふうに思います。

いいですか、どうぞ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） まず、原発の問題からですけど、原発の問題は、韓国内には今24基の原発があると（発言する者あり）ということで、黄海側に6基です。そして、今度西側のほうにはほ



かは18基ぐらいあるということで、一番近いところが古里という所ですけど、すぐその上にウォルソンという原発が6基、「月城」と書く原発があります。

ただ、こういった中で、ムン・ジェイン今度の大統領が、原発政策についてはやらないというような宣言をいたしましたので、今度、更新はまずあり得ないのかなと、韓国のほうは。そういうふうに思っております。

それと、ミサイルの問題でございますけども、今度要望に行く際には、やはり大和堆も、これはイカ釣り漁場で名高い漁場でもありますし、対馬の漁民もかなりそこに行っている状況は確認しておりますので、そういうふうに要望をしたいというふうに思います。

それからまた、あわせて、この自衛隊の増強につきましても、先週の土曜日に防衛協会の総会が開かれた折に、今の陸上自衛隊の司令のほうから講演をいただきました。やはり、対馬とか島根の西沿岸のほうについては、有事の際の避難民、その避難民に隠れたテロ対策、ここが一番心配をされる場所であるということで、自衛隊としてもここら辺には気をつけていきたいというような話をされておりました。

私といたしましても、特にこのことについては対馬が一番心配される場所ですので、自衛隊、そして、海上保安部等との連携を密にしながら情報交換をして、この対応策を練ってきたいなというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 最後に今、自衛隊の話を市長がされましたので、自衛隊の件について少しお話したいと思いますが、海上自衛隊の観桜会に毎年呼ばれていきます、我々も。そして、向こうから持ってきた掃海艇を見せてもらうと、何が何やらわからんちゃけど、ああいった掃海艇をわざわざ持ってきて対馬の人に見せるわけです。

そうじゃなくて、やはりこういった国境の島には、イージス艦まではいかんにしても、駆逐艦か巡洋艦かそういったものぐらいは1隻か2隻か配備してもらおうようにしてもらわないと、それとか人を運ぶ、海上保安部では無理です。海上保安部は結構対馬には配備はされています。あさじも大きいやつが今来ていますけど、海上保安部は国境という意識があるかどうかわかりませんが、結構、船も配備をされている。

でも、自衛隊に関しては全く、考えているのか考えていないのかわかりません。だから、こういった要望をされる時には、ぜひ艦船と、そして岸壁と、これをやはり国境離島新法の中にぜひ含めてもらって、これちゃんと言っているんですから、国境を守るために何とかせないかんよということをちゃんと国も明記したんですから、ぜひこれを利用する、そういったことをちゃんと国にお願いしたい。

これ、対馬は金出す必要もないし、金出される問題じゃないっちゃから、ぜひ国のほうに強く

これは要望して、早いうちに岸壁をつくってもらって、岸壁がないと船は来んから、どっちが先かわかんけど、ぜひそういったことも含めてお願いをしていただきたいと思います。

それから、原発の話は今市長がされました。韓国の今、新しい大統領は、原発は廃止するという方向で進むということが記事に載っておりますけれども、これはそう簡単にはいかんでしょう。30%の発電、電力をどこから持ってくるかということが出てきますから、何年に1基か古いほうから順々に廃棄していくかもわかりませんが、それでもやっぱり何十年かかかるんじゃないかなというふうに私は思います。

だから、これも、これは対馬だけで別に調べる必要はないですけど、なったときに一番影響を受けるのは対馬なんですよという話を県や国にしておかないと、玄海原発なんて私は全然気にしていません。距離は70キロか何かよくわかりませんが、あの原発がボンといたってあつちには行かん、こつちには来ん。だから、あれは私は気にしてないけど、韓国のやつが将来は気になるなということがありましたので、こういう質問を今回はさせてもらったわけです。

ぜひ、これも国のほうにしっかりお願いをしていただきたいと思います。

それから、最後にドローンの件ですけど、今、各自治体もそういう動きをしているところがあると、市長もそういう話をされましたけど、恐らく僕も、携帯電話と一緒に、だんだん変わってきているじゃないですか。我々が使うことができないものに今なってきた。

非常に難しいものになってきたし、このドローンもカメラを搭載できて、それでどこからでも操縦はできて、そして見れるし、こういった安くいい機械は私はないと思うんですけど、ほかのいろんな自治体よりも先に、調査をされて、すぐするというわけじゃないけど、よく調べてもらって、そして導入をされたほうがいいのかという気がしています。

これはCATVの放送にも十分役立ってくると思います。これは観光地のPRとか、絶対役に立つと思っておりますから、それをぜひやってほしいなと思いますし、その問題はインストラクターをどうするか、やっぱり2人ぐらいはいないと、28万ぐらいかかる、免許か許可か何か知らんけど、取得するのにそういうお金が要るわけで、職員がするのか、誰かに委託してさせるのか、希望者にさせるのか、そういったところも少し考えてほしいと思いますし。

今、15万のドローンをこの前僕は見たんですけど、その上は50万から150万というやつがあるみたいですから、市で入れるとすればそのくらい入れないかんかなというふうに、災害現場に薬も持っていけるみたいですから、そのドローンで。そういったことをぜひやっていただきたいと思います。その認定書をもらうためにどうすればいいと思われま。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 認定書の制度ができたというようなことで、国土交通省の許可が要ることになりました。その許可をもらうためには、安全運航管理者及び操縦技術技能認定が必

要となりますので、ここでその講習を受けなくてはならないと、その講習の受講料が約28万ほどかかるというようなことを聞いております。

○議長（小川 廣康君） 17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） だから、28万ぐらいかかるということはわかってっちゃけど、それをどういうふうにすればいいかなち（発言する者あり）はい。それは、今、市でやるちいうのは言われんばってん。どういう方法でやるかということの今からの課題でしょう。

ケーブルテレビはどうやっちゃろうか。（発言する者あり）持っとると。飛ばそる。（発言する者あり）そう。（発言する者あり）事業者がね。

○議長（小川 廣康君） 済みません。許可を取って発言をお願いします。

○議員（17番 作元 義文君） ケーブルテレビが持っているということであれば、そういったことも含めてよく市と相談をされてやってください。

ぜひ、僕はこれから先の重要なものになってきやせんかなと思っていますから、ぜひお願いをしておきたいと思います。

あとは、大体そういったことで、国にお願いすることばかり、そして、市民の安全安心を図ること、こういったことのマニュアルを早くつくって皆さんに知らせをすること、こういったことをしっかり頭に入れて、早急にやってください。よろしくをお願いします。

これで、質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小川 廣康君） これで、作元義文の質問は終わりました。

---

○議長（小川 廣康君） 以上で、本日予定しておりました市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会とします。お疲れさまでございました。

午後3時42分散会

---